

「書道Ⅱ」の目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

「書道Ⅱ」の学習内容と学習計画

「高等学校学習指導要領 芸術科 書道Ⅱ」に示された「内容」のうち、「A 表現」「B 鑑賞」の各事項を指導する。主たる学習材として光村図書発行『書Ⅱ』教科書を使用し、当該教科書に示された学習内容に即して学習活動を展開する。

「書道Ⅱ」の評価規準について

「書道Ⅱ」の特性に応じた評価の観点は「書への関心・意欲・態度」「書表現の構想と工夫」「創造的な書表現の技能」「鑑賞の能力」である。評価・評定にあたっては、学習指導要領の目標を達成するために設定した学習活動（単元・教材）に対し、四つの観点にもとづく評価規準をそれぞれ設定する（次ページ以降の年間指導計画では、順に【関】【想】【技】【鑑】と表示）。

参考 年間指導計画作成にあたっての配慮事項

〔年間指導計画の作成にあたって〕

- ・学習指導要領に示された目標と指導事項を確認する。
- ・学校の教育目標との関連を検討する。
- ・生徒の興味や能力などの実情、学校行事などの年間スケジュールとの関連、地域の行事や書文化的環境等の実態を把握する。
- ・教科書等により指導内容を検討する。
- ・指導内容の重点化や系統化などを検討し、月別に単元・目標・指導内容・教材・指導時数を配当するなど、指導内容の構成を検討する。

〔授業時数の配当にあたって〕

- ・単位については、50分を1単位時間とし、35単位時間の授業を1単位とすることを標準としている。「書道Ⅱ」の標準単位数は2単位のため、70単位時間を標準として授業時数を配当した。
- ・『書Ⅱ』教科書の単元別授業時数については、例えば、次のような配当が考えられる。
 - ①教科書全体を平均的に扱う場合。
 - ※「書道Ⅱ」学習指導要領の「内容の取扱い」にもとづき、次のような学習計画を立てた場合。
 - ②「仮名の書」を扱わない場合。
 - ③「漢字の書」を扱わない場合。

〔単元別授業時数〕

| | ① | ② | ③ |
|-----------|----|----|----|
| 巻頭 | 2 | 2 | 2 |
| 漢字の書 | 34 | 45 | 0 |
| 仮名の書 | 20 | 0 | 45 |
| 漢字仮名交じりの書 | 10 | 15 | 15 |
| 篆刻・刻字 | 4 | 8 | 8 |
| 書道史 | 適宜 | 適宜 | 適宜 |
| 総授業時数 | 70 | 70 | 70 |

| 月 | 時数 | 単元名・教材名・指導目標 | 指導事項 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------------------|---|------------------|--|---|
| 巻頭 | | | | | |
| 4月 | 2 | 王羲之の書を鑑賞しよう [教科書 表 2-P. 2] ◎書を芸術の域に高めた王羲之の書法や足跡を理解させる。 | Bア・イ・ウ | ① 尺牘等の比較を通して、楷書、行書、草書の各書体に精通した表現の多彩さを理解する。 ② 各作品の成立の背景や所蔵の履歴を学び、王羲之の足跡について理解する。 | 【関】王羲之が「書聖」と称されるに至った背景を理解しようとしている。 【鑑】各作品の技法上の違いと書風の特徴などを捉え、表現効果について分析している。 |
| | | 三色紙を鑑賞しよう [教科書 P. 3-5] ◎古筆の最高峰である三色紙について理解を深めさせる。 | Bア・イ・ウ | ① 三色紙の比較を通して、散らし書きなどの構成方法や表現効果について理解する。 ② 連綿の美と余白の美の相乗効果について鑑賞し、理解を深める。 | 【関】各作品の特徴と書風の違いを理解しようとしている。 【鑑】仮名の構成方法について理解し、その表現効果を味わっている。 |
| 漢字の書 | | | | | |
| 4月 | 1. はじめに | | | | |
| | 2 | 漢字の書の個性豊かな表情 [教科書 P. 8-9] ◎漢字の書体の変遷について理解を深めさせる。 ◎各古典の書風（線質や字形など）を比較し、表現効果を感じ取らせる。 | Bイ・ウ | ① 歴史の中で漢字の書体がどのように変遷してきたかを理解する。 ② 書体・書風の変化と文化の歩みの密接な関係を理解する。 | 【関】歴史上、書体がどのように変遷してきたかを理解しようとしている。 【鑑】各古典の書体・書風の特徴を理解し、その表現効果を味わっている。 |
| | | 篆・隸・草・楷を比べてみよう [教科書 P. 10-11] ◎各書体の典型的な字形と用筆について理解し、技法を習得させる。 ◎各書体の特徴を比較して今後の学習に反映させる。 | A2)ア・イ Bア | ① 各書体の字形を比較分析し、それぞれの特徴を捉える。 ② 比較を通して各書体の用筆を理解し、横画の用筆を習得する。 | 【関】各書体の違いがどのような表現要素によるものか、主体的に分析しようとしている。 【技】藏鋒と露鋒の違いを明確に表現し、全体に調和させている。 【鑑】各書体の字形や用筆の特徴を捉え、印象の違いを理解している。 |
| 5月 | 2. 文字の造形を学ぶ | | | | |
| | 【篆書】 | | | | |
| | 6 | 篆書の用筆、文字の形を見てみよう 「泰山刻石」 [教科書 P. 12-13] ◎「泰山刻石」の鑑賞・臨書を通して篆書の特徴を捉え、書体に即した用筆・運筆を理解させる。 | A2)ア・イ Bア・イ・ウ | ① 篆書（小篆）の特徴について話し合い、左右相称の字形や丸く滑らかな転折、藏鋒による起筆（教科書 P. 10-11）を確認する。 ② 「泰山刻石」を鑑賞し、縦長で左右相称の字形や均一な線の太さ、用筆の特徴を理解する。 ③ 書体に即した用筆・運筆を理解して、臨書する。 | 【関】「泰山刻石」の表現技法に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【想】鑑賞を通して「泰山刻石」の書風や特徴を理解し、臨書に生かしている。 【技】臨書を通して、小篆の点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を習得している。 【鑑】「泰山刻石」の特徴を捉え、その美を感じ取っている。 |
| | | 篆書の多彩な表情を捉えよう 「石鼓文」「臨石鼓文」 「小臣隸犧尊」「甲骨文」 [教科書 P. 14-17] ◎書かれた時代や書き手の個性による篆書の多彩な表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して作品の書風や構成の特徴を捉え、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 | A2)ア・イ Bア・イ・ウ | ① 「石鼓文」（大篆）を鑑賞し、小篆と比較して、動きのある表現を理解する。 ② 呉昌碩「臨石鼓文」を原本と比較しながら鑑賞し、臨書を経て自己の書風を形成していく作家の境地を理解する。 ③ 「小臣隸犧尊」（金文）を鑑賞し、絵画的な趣もある造形や縦長の字形、ふくよかな点画について理解する。 ④ 「甲骨文」を鑑賞し、鋭い線質や直線を主とした点画について理解する。 ⑤ 書風に即した用筆・運筆を工夫して、臨書する。 | 【関】篆書の発展について、時代背景や発生の必然性に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【想】篆書の造形を分析することによって、創作の構想に結びつける視点を養っている。 【技】多彩な表現を体験することで、基本的な篆書の技法を再確認している。 【鑑】篆書が発展してきた時代を遡ることで、表現の幅を理解し、多彩な美を感じ取っている。 |

| 月 | 時数 | 単元名・教材名・指導目標 | 指導事項 | 学習活動 | 評価規準 |
|----|----|---|---------------|---|--|
| | | 【コラム】何のために書くのか？ [教科書 P. 18-19] ◎書き残されてきた文字の多様な例から、文字の歴史的な役割を考えさせる。 | Bイウ | ① 書き残されてきた文字の具体的な例を分類して鑑賞することで、文字の歴史的な役割を考える。 ② 現代を生きる私たちに与えられた文字の歴史をグループで話し合わせる。 | 【関】 文字の歴史的な役割や書くことの意味について理解しようとしている。 【鑑】 書かれた目的や内容に加えて、書いた人の思いや表現効果などを味わっている。 |
| 6月 | | 【隷書】 | | | |
| | 5 | 隷書を用筆、文字の形を見てみよう 「乙瑛碑」 [教科書 P. 20-21] ◎「乙瑛碑」の鑑賞・臨書を通して隷書の特徴を捉え、書体に即した用筆・運筆を理解させる。 | A2アイ Bア・イウ | ① 隷書の特徴について話し合い、扁平な字形や水平な横画による構成、藏鋒による起筆、波磔・波勢(教科書 P. 10-11)を確認する。 ② 「乙瑛碑」を鑑賞し、強調された波磔による重厚感を理解する。 ③ 書体に即した用筆・運筆を理解して、臨書する。 | 【関】 「乙瑛碑」の表現技法に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【想】 隷書の特徴を捉え、基本的な点画や線質の表し方と用筆の関係を理解して臨書している。 【技】 臨書を通して、隷書(八分)の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を習得している。 【鑑】 「乙瑛碑」を分析して、その美を感じ取っている。 |
| | | 隷書の多彩な表情を捉えよう 「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」 [教科書 P. 22-25] ◎書かれた時代や書き手の個性による隷書の多彩な表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」の書風や構成の特徴を捉え、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 | A2アイ Bア・イウ | ① 「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」を比較し、隷書の多彩な表現を感じ取る。 ② 「居延漢簡」の伸びやかな波磔やリズムミカルでスピード感のある書風を鑑賞する。 ③ 「曹全碑」に見られる波磔の装飾的な効果や「石門頌」の素朴でおおらかな味わいなどを鑑賞し、各作品の特徴を理解する。 ④ 書風に即した用筆・運筆を工夫して、臨書する。 | 【関】 隷書の多彩な表現技法に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【想】 「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」の書風を捉え、工夫して表現している。 【技】 「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」の線質、字形、全体構成など、表現の技能を習得している。 【鑑】 「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」を分析して、隷書の多彩な美を感じ取っている。 |
| | | 【草書】 | | | |
| | 6 | 草書を用筆、文字の形を見てみよう 「十七帖」 [教科書 P. 26-27] ◎「十七帖」の鑑賞・臨書を通して草書の特徴を捉え、書体に即した用筆・運筆を理解させる。 | A2アイ Bア・イウ | ① 草書の特徴について話し合い、点画の省略や柔らかく丸みのある転折、線の太さの変化、点画の連続を確認する。 ② 「十七帖」を鑑賞し、柔らかく緩急のある書風を理解する。 ③ 書体に即した用筆・運筆を理解して、臨書する。 ④ 草書の書き方(例)を鑑賞し、草書の字形には一定の法則があることを理解する。 | 【関】 「十七帖」の表現技法に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【想】 草書の特徴を捉え、基本的な点画や線質の表し方と用筆の関係を理解して臨書している。 【技】 臨書を通して、点画の省略や連続の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を習得している。 【鑑】 「十七帖」を分析して、その美を感じ取っている。 |
| 7月 | | 草書の多彩な表情を捉えよう 「書譜」「草書諸上座帖巻」 [教科書 P. 28-29] ◎書かれた時代や書き手の個性による草書の多彩な表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「書譜」「草書諸上座帖巻」の書風や構成の特徴を捉え、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 | A2アイ Bア・イウ | ① 「書譜」と「草書諸上座帖巻」を比較し、草書の多彩な表現を感じ取る。 ② 「書譜」「草書諸上座帖巻」の文字の大小や変化に富んだ字形による自由闊達な書風を鑑賞する。 ③ 「書譜」「草書諸上座帖巻」の線質、字形、全体構成の違いを理解する。 ④ 書風に即した用筆・運筆を工夫して、臨書する。 | 【関】 「書譜」「草書諸上座帖巻」の表現技法に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【想】 「書譜」「草書諸上座帖巻」の書風を捉え、工夫して表現している。 【技】 「書譜」「草書諸上座帖巻」の線質、字形、全体構成など、表現の技能を習得している。 【鑑】 「書譜」「草書諸上座帖巻」を分析し、草書の多彩な美を感じ取っている。 |
| | | 【コラム】名品になった詫び状 [教科書 P. 30-31] ◎藤原佐理の人となりについて理解し、感情の発露を味わわせる。 | Bア・イウ | ① 三跡の活躍した時代を理解した上で、藤原佐理の詫び状を鑑賞する。 ② 詫び状が名品として認められ、大切に保管されてきた背景を理解する。 | 【関】 藤原佐理の人間味あふれる詫び状について味わおうとしている。 【鑑】 藤原佐理の作品を分析し、名品とされた背景も踏まえて鑑賞している。 |

| 月 | 時数 | 単元名・教材名・指導目標 | 指導事項 | 学習活動 | 評価規準 |
|-----|-----------------|--|--------------|---|--|
| | | 【行書】 | | | |
| | 6 | 行書の多彩な表情を捉えよう 「集王聖教序」「温泉銘」 [教科書 P. 32-33] ◎書かれた時代や書き手の個性による行書の多彩な表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「集王聖教序」「温泉銘」の書風や構成の特徴を捉え、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 | A2アイ Bアイウ | ① 「集王聖教序」と「温泉銘」を比較し、行書の多彩な表現を感じ取る。 ② 「集王聖教序」における王羲之の書風の普遍的魅力を鑑賞する。 ③ 「温泉銘」の独特な結構、抑揚に富んだ線質から成る切れ味鋭い書風を鑑賞する。 ④ 書風に即した用筆・運筆を工夫して、臨書する。 | 【関】 「集王聖教序」「温泉銘」の表現技法に関心を持ち、その美を味わおうとしている。 【想】 「集王聖教序」「温泉銘」の書風を捉え、工夫して表現している。 【技】 「集王聖教序」「温泉銘」の線質、字形、全体構成など、表現の技能を習得している。 【鑑】 「集王聖教序」「温泉銘」を分析し、行書の多彩な美を感じ取っている。 |
| 9月 | | 感情が筆意に表れた顔真卿の三稿 「祭姪文稿」「争坐位文稿」「祭伯文稿」 [教科書 P. 34-35] ◎顔真卿について理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「三稿」の特徴を理解させる。 | A2アイ Bアイウ | ① 「祭姪文稿」「争坐位文稿」「祭伯文稿」と筆者・顔真卿について知る。 ② 「三稿」の文章の概要を知り、筆意に表れた筆者の感情を感じ取る。 ③ 「三稿」を鑑賞し、文字の連綿、文字の大小や線の太細、抑揚のある運筆などの書風を理解する。 ④ 用筆や筆順、字形の特徴を理解して、臨書する。 | 【関】 「三稿」の表現技法に関心を持ち、その美しさを味わおうとしている。 【想】 「三稿」の特徴を理解し、字形や書風を捉え、表現を工夫している。 【技】 「三稿」の用筆・運筆の技法を習得し、表現に生かしている。 【鑑】 「三稿」の表現技法を比較し、共通した表現と卒意から生まれた表現の違いを感じ取っている。 |
| | | 【コラム】北宋の三大家 [教科書 P. 36-37] ◎「北宋の三大家」の人物や作品の特徴を理解させる。 | Bアイウ | ① 蘇軾と黄庭堅の作品の背景や二人の関係について知り、作品を鑑賞する。 ② 米芾の人となりや作品について知り、表現の特徴を理解する。 | 【関】 「北宋の三大家」が残した個性豊かな表現を味わおうとしている。 【鑑】 唐代の書法と北宋の書法の関連性を理解して、鑑賞を深めている。 |
| | | 【楷書】 | | | |
| | 4 | 楷書の多彩な表情を捉えよう 「薦季直表」「爨宝子碑」「始平公造像記」「美人董氏墓誌銘」「孟法師碑」 [教科書 P. 38-43] ◎書かれた時代や書き手の個性による楷書の多彩な表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「薦季直表」「爨宝子碑」「始平公造像記」「美人董氏墓誌銘」「孟法師碑」の書風や特徴を捉え、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 | A2アイ Bアイウ | ① 「薦季直表」について知り、扁平な造形の楷書について理解する。 ② 「爨宝子碑」の鑑賞・臨書によって隷書の趣を含んだ楷書の理解を深める。 ③ 「始平公造像記」を通して、北魏の造像記特有の切れ味ある点画や肉太な線質の表現について知る。 ④ 「美人董氏墓誌銘」の字形の整った穏やかな書風と鋭い線質を感じ取る。 ⑤ 「孟法師碑」と「雁塔聖教序」を比較し、筆者の中での制作年代の違いによる書風の変化をグループで話し合う。 ⑥ 書風に即した用筆・運筆を工夫して、臨書する。 | 【関】 さまざまな楷書の美に対して興味・関心の幅を持ち、その美しさを味わおうとしている。 【想】 楷書の多彩な表現を理解し、特徴を生かした表現の工夫をしている。 【技】 楷書の多彩な表現を比較することで、用筆・運筆の技法を習得している。 【鑑】 時代や地域の違いが作品に反映されていることを理解している。 |
| | | 【コラム】タイムスリップ書道史 [教科書 P. 44-45] ◎日本と中国の密接な関係を、書と歴史の観点から理解を深めさせる。 | Bイウ | ① 唐の太宗の治世と遣唐使の派遣がもたらした日本の書文化の発展について理解する。 ② 唐文化の爛熟と空海の入唐が重なることでもたらされた影響を理解する。 | 【関】 飛鳥・平安時代の書を通じた日中の文化交流史について理解を深めようとしている。 【鑑】 唐からもたらされた書文化の事例を理解している。 |
| 10月 | 3. 構成を学ぶ | | | | |
| | 2 | 芸術としての書を味わおう [教科書 P. 46-47] ◎書の美の諸要素や、表現方法・形式による効果を分析し、書の現代的意義について理解を深めさせる。 | A2アイウ Bアイ | ① 近現代の作品を鑑賞し、「筆者が参考にしたと思われる古典」「線質、余白や空間性、表現・構成の効果」「筆者が表現しようとする美と、それを支えている要素」などをグループで話し合う。 | 【関】 それぞれの書作品に関心を持ち、表現効果を味わおうとしている。 【鑑】 表現方法や形式による効果、美を構成する要素を分析し、作品のよさや筆者の意図を感じ取っている。 |

| 月 | 時数 | 単元名・教材名・指導目標 | 指導事項 | 学習活動 | 評価規準 |
|----------------|---|---|------------------|--|---|
| 4. 創作する | | | | | |
| | 2 | 座右の銘を書こう [教科書 P. 48-49] ◎感興や意図に応じて素材を選び、古典にもとづいて書体や書風、表現形式や全体構成を工夫し、個性的に表現させる。 | A2)ア・イ・ウ・エ Bア | ① 座右の銘にふさわしい名句・名言を選び、素材に合った書体や書風、表現形式を構想する。 ② 表現の意図や形式に応じて、用具・用材を選び、表現や構成を工夫する。 ③ 制作した作品を相互に批評させ、表現や構成についてよい点を発表する。 | 【関】創作に主体的に取り組んでいる。 【想】表現意図に応じて書体や書風、表現形式などの構想を練っている。 【技】古典を通して学んだ各書体の表現技法や紙面構成を表現に生かしている。 【鑑】互いに作品を鑑賞し合い、表現や紙面構成のよい点を認め合っている。 |
| | 1 | 【コラム】日本文学に登場する能書 [教科書 P. 50] ◎日本文学に描かれた三跡の姿から、人となりを考えさせる。 | Bイ・ウ | ① 三跡の描写を古文表現のまま音読して味わう。 ② 写本を鑑賞し、後世に名を残した能書の語り継がれ方についてグループで話し合う。 | 【関】三跡の各人物について関心をもち、人となりを理解しようとしている。 【鑑】能書の姿を現代語訳、原文、写本のそれぞれに味わっている。 |
| 仮名の書 | | | | | |
| 10月 | 1. 文字の造形を学ぶ | | | | |
| | 8 | 「高野切第一種」 [教科書 P. 52-55] ◎鑑賞・臨書を通して「高野切第一種」の書風の特徴を捉え、連綿や墨継ぎなど、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 | A3)ア・イ Bア・イ・ウ | ① 連綿の基本である形連、意連について確認する。 ② 「高野切第一種」を鑑賞し、連綿と墨継ぎによる表現の美を感じ取る。 ③ 連綿の特徴と墨継ぎによる変化のつけ方を理解し、書風に即した用筆・運筆を工夫して臨書する。 ④ 「高野切第一種」の分析を通して、短冊の書式を理解する。 | 【関】連綿や墨継ぎなど、書風に即した用筆・運筆に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【技】「高野切第一種」の連綿線の角度や強弱、墨継ぎなどの用筆や運筆を理解し、工夫して臨書している。 【鑑】「高野切第一種」を分析し、その美を感じ取っている。 |
| 11月 | 仮名の組み合わせによる表現の美を味わおう「本阿弥切本古今和歌集」「関戸本古今和歌集」 [教科書 P. 56-57] ◎仮名の組み合わせを工夫することで、表現の幅が広がることを理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「関戸本古今和歌集」「本阿弥切本古今和歌集」の特徴を捉え、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 | | A3)ア・イ Bア・イ・ウ | ① 「本阿弥切本古今和歌集」と「関戸本古今和歌集」の同歌を比較して、仮名の組み合わせ方による表現の広がりを感じ取る。 ② 「本阿弥切本古今和歌集」の狭い字間、筆の回転を多用したりズミカルな運筆を鑑賞する。 ③ 「関戸本古今和歌集」のゆったりとした側筆の運筆と軽快な連綿線の対比を鑑賞する。 ④ 平仮名と変体仮名の組み合わせによる表現の違いを理解し、書風に即した用筆・運筆を工夫して臨書する。 | 【関】平仮名と変体仮名の組み合わせによる表現に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【技】平仮名と変体仮名の効果的な組み合わせ方を理解し、用筆や運筆を工夫して臨書している。 【鑑】「本阿弥切本古今和歌集」「関戸本古今和歌集」を分析し、その美を感じ取っている。 |
| | 平仮名・変体仮名一覧 [教科書 P. 58-59] ◎平仮名・変体仮名の書き方を習得させる。 | | A3)ア・イ Bア・イ | ① さまざまな平仮名と変体仮名の書き方を習得する。 | 【関】平仮名・変体仮名のさまざまな書き方に関心をもっている。 【技】平仮名・変体仮名のさまざまな形を習得している。 |
| | 3 | 古筆の多彩な表現を楽しもう「高野切第二種」「針切」「香紙切」 [教科書 P. 60-61] ◎鑑賞・臨書を通して「高野切第二種」「針切」「香紙切」の表現の特徴を捉え、書風に即した用筆・運筆を工夫させる。 ◎古筆の多彩な表現効果を感じ取らせる。 | A3)ア・イ Bア・イ・ウ | ① 「高野切第二種」「針切」「香紙切」を比較し、古筆の多彩な表現効果を感じ取る。 ② 「高野切第二種」の側筆を多用した緩やかな運筆や懐の広い字形、行の中心を通した連綿を鑑賞する。 ③ 「針切」の細く鋭い線質、多字数にわたる連綿を鑑賞する。 ④ 「香紙切」の大胆な連綿や線の太細、疎密の変化を鑑賞する。 ⑤ 好きな古典の一つを選び、書風に即した用筆・運筆を工夫して臨書する。 | 【関】古筆の表現技法に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【想】各古筆の書風を捉え、工夫して表現している。 【技】古筆の線質、字形、墨色、仮名の組み合わせ方など、表現の技能を習得している。 【鑑】「高野切第二種」「針切」「香紙切」を分析して、古筆の多彩な美を感じ取っている。 |

| 月 | 時数 | 単元名・教材名・指導目標 | 指導事項 | 学習活動 | 評価規準 |
|-----|-----------------|--|-------------------|---|--|
| | | 【コラム】伝称筆者と古筆 [教科書 P. 62-63] ◎古筆における伝称筆者の存在を理解させる。 | Bイウ | ① 紀貫之、小野道風、藤原行成の三者の筆と伝えられている古筆を比較して、書風や内容について鑑賞する。 ② 伝称筆者と推定筆者について調べ、グループで話し合う。 | 【関】 古筆の鑑定について興味・関心を深めようとしている。 【鑑】 書き手として否定されながら「伝」の称号が受け継がれている背景について理解している。 |
| 12月 | 2. 構成を学ぶ | | | | |
| | 5 | 自然の景観を意識した構成の美を楽しもう「元永本古今和歌集」 [教科書 P. 64-65] ◎古筆の紙面構成には、自然や四季の移ろいが反映されていることを理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「元永本古今和歌集」の構成の工夫を理解させる。 | A3ア・イ・ウ Bア・イ・ウ | ① 「元永本古今和歌集」を鑑賞して、雁行や藤棚に見立てた散らし書きの構成美を捉える。 ② 表現形式に応じた紙面構成の特徴を理解して臨書する。 | 【関】 雁行や藤棚に見立てた散らし書きの構成に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【技】 雁行や藤棚に見立てた散らし書きの構成を理解して臨書している。 【鑑】 「元永本古今和歌集」を分析し、その美を感じ取っている。 |
| | | 散らし書きによる空間の美を味わおう「継色紙」 [教科書 P. 66-67] ◎日本文化における「間」の美意識について理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「継色紙」の構成美を理解させる。 | A3ア・イ・ウ Bア・イ・ウ | ① 「継色紙」と「松林図屏風」を合わせて鑑賞することで、日本文化における「間」の美意識について理解する。 ② 表現形式に応じた紙面構成の特徴を理解して臨書する。 | 【関】 空間を生かした散らし書きの紙面構成に関心をもち、その美を味わおうとしている。 【技】 空間を生かした散らし書きの構成を理解して臨書している。 【鑑】 「継色紙」を分析して、その美を感じ取っている。 |
| | | 用具・用材による表現の変化を楽しもう [教科書 P. 68-69] ◎用具・用材を効果的に活用することで、多彩な表現が生まれることを理解させる。 | A3イ・ウ Bア・イ | ① 同じ筆者による多彩な作品を鑑賞し、用具・用材や、墨の濃淡や潤濁による表現の違いを捉える。 ② 用具・用材による表現の違いを理解し、創作につなげる。 | 【関】 用具・用材による表現効果について関心をもっている。 【想】 用具・用材による表現の違いを理解し、創作の構想に生かしている。 【鑑】 各作品の表現効果を分析し、その美を感じ取っている。 |
| 1月 | 3. 創作する | | | | |
| | 4 | 百人一首を書こう [教科書 P. 70-71] ◎感興や意図に応じて素材を選び、古筆の表現や形式に応じた構成を工夫させる。 ◎創作を通して充実感や喜びを味わわせる。 | A3ア・イ・ウ・エ Bア | ① 百人一首から好きな1首を選び、素材に合わせて連綿と墨継ぎ、平仮名と変体仮名との組み合わせ、紙面構成、用具・用材などの構想を練る。 ② 表現の意図や形式に応じて用具・用材を選び、表現や構成を工夫する。 ③ 完成した作品を相互に批評させ、表現や構成についてよい点を発表する。 | 【関】 百人一首の創作に主体的に取り組んでいる。 【想】 表現意図に応じて、書風や紙面構成などの構想を練り、工夫して個性的な表現を生み出している。 【技】 古筆を通して学んできた表現技法や紙面構成、用具・用材の効果を理解し、創作に生かしている。 【鑑】 互いに作品を鑑賞し合い、表現や構成のよい点を認め合っている。 |
| | | 【コラム】やってみよう「墨流し」「ぼかし染め」 [教科書 P. 72] ◎身近な道具を活用した料紙製作のしかたを知り、関心・意欲を高めさせる。 | Bア・イ | ① 身近な道具を活用して「墨流し」や「ぼかし染め」に取り組み、創作への関心・意欲を高める。 | 【関】 身近な道具を活用した料紙製作のしかたを知り、創作への関心・意欲をもっている。 |

| 月 | 時数 | 単元名・教材名・指導目標 | 指導事項 | 学習活動 | 評価規準 |
|--|--|----------------------------------|---|--|------|
| 漢字仮名交じりの書 | | | | | |
| 1月 | 1. 古典に学ぶ | | | | |
| ※教科書 P.79「発展 鷹揚さを求めて」について、隷書を用いた漢字仮名交じりの書は、発展的な学習内容であるため、生徒や学校の特性等を考慮した上で扱う。 | | | | | |
| 7 | 古典の書風を生かして書こう [教科書 P.74-81] ◎古典の書風を生かすことで、多様な書の表現が生まれることを理解させる。 ◎表現のねらいに基づいて構想を練り、これまでに学習した書体・書風や紙面構成、用具・用材に関する知識・技能を生かして、工夫して表現させる。 | A1)ア・イ・ウ・エ Bア・イ | ①「賀蘭汗造像記」を見た感動をもとに生まれた表現を鑑賞する。 ②「温かさ」「爽快感」「疾走感」「鷹揚さ」の創作例を通して古典の書風を分析し、創作のポイントを確認する。 ③「揺るぎなさ」「鋭さ」の創作例を通して古筆の書風を分析し、創作のポイントを確認する。 ④テーマに沿った表現効果と参考古典の関係を意識しながら構想を練り、創作する。 | 【関】 古典の書風を生かして作品を創作することに関心をもっている。 【想】 作品のテーマと書風の関連性を意識し、表現のねらいに対する技法上の工夫とその効果を的確に捉え、創作の構想に生かしている。 【技】 書風の分析が的確で、表現技法への転換が適切に行われている。 【鑑】 表現の工夫によって、多彩な書の表現が生まれることを理解し、古典の書風と表現例を関連づけて分析している。 | |
| 2・3月 | 2. 創作する | | | | |
| 3 | ふるさとを書で表現しよう [教科書 P.82-83] ◎意図に応じて素材や表現を構想し、構成、用具・用材を工夫して表現させる。 ◎書の現代的意義について理解を深めさせる。 | A1)ア・ウ・エ Bア・イ・ウ | ①「創作の手順」を参考に、書と絵や写真との効果的な組み合わせ方を工夫し、郷土をPRする作品を制作する。 | 【関】 漢字仮名交じりの書の創作に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。 【想】 郷土のPRというねらいを明確に定め、古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かして構想を練っている。 【技】 ねらいを達成するために、書体・書風や紙面構成、用具・用材に関する知識・技能を適切に生かしている。 【鑑】 創作例に表れた個性や表現効果を味わい、その美を感じ取っている。 | |
| | 【コラム】良寛の書 [教科書 P.84] ◎良寛の書を味わい、その人柄と作品の素朴さについて理解させる。 | Bア・イ | ①手紙の内容を知り、伸びやかで素朴な味わいの表現を鑑賞する。 ②手本とした「秋萩帖（教科書 P.99 参照）」などと比較し、良寛の書風の確立についてグループで話し合う。 | 【関】 良寛の書が多くの人を魅了したことについて関心をもっている。 【鑑】 良寛の人柄や作品から放たれる伸びやかさについて理解している。 | |
| 篆刻・刻字 | | | | | |
| 2・3月 | 1. はじめに | | | | |
| 1 | 印の多彩な表現を楽しむ [教科書 P.86-87] ◎印の歴史と印の美を構成する諸要素や、表現方法・形式を理解させる。 | Bア・イ・ウ | ①長い歴史の中で、印が担ってきた役割を知る。 ②多彩な印を鑑賞し、その美を構成する諸要素や、表現方法・形式について分析する。 | 【関】 印の歴史や表現に関心をもっている。 【鑑】 印の美を構成する諸要素や、表現方法・形式を理解している。 【鑑】 印が長い歴史の中で担ってきた役割を理解している。 | |
| 2. 創作する | | | | | |
| 3 | 姓名印を刻そう [教科書 P.88-89] ◎書体や書風、配字による表現の効果を理解し、感興や意図に応じて構想させる。 ◎篆刻の技能を習得し、個性的に表現させる。 | A2)ア・イ・ウ・エ Bア | ①朱文印の制作手順を理解する。 ②書体や書風、配字による表現の効果を理解して、感興や意図に応じて構想を練る。 ③仕上がりイメージをイメージして、表現や構成を工夫する。 ④制作した作品を相互に批評させ、表現や構成についてよい点を発表する。 | 【関】 篆刻に関心を持ち、制作に主体的に取り組んでいる。 【想】 書体や書風、配字による表現の効果を理解して、感興や意図に応じて構想を練っている。 【技】 篆刻制作の手順を理解し、検字や布字、運刀に関する知識や技法を習得している。 【鑑】 互いに作品を鑑賞し合い、構成や技能のよい点を認め合っている。 | |

| 月 | 時数 | 単元名・教材名・指導目標 | 指導事項 | 学習活動 | 評価規準 |
|------------|----|---|--------------------------------|--|--|
| | | Try! 陽刻で表札を作ってみよう [教科書 P.90-91] ◎書体や書風、構成、刻し方、彩色による表現効果を理解し、感興や意図に応じて構想させる。 ◎刻し方や彩色の技能を習得し、個性的に表現させる。 | A2)ア・イ・ウ・エ Bア | ① 陽刻の制作手順を理解する。 ② 書体や書風、構成、刻し方、彩色による表現の効果を理解し、感興や意図に応じて構想を練る。 ③ 仕上がりをイメージして、表現や構成を工夫する。 ④ 制作した作品を相互に批評させ、表現や構成についてよい点を発表する。 | 【関】 刻字に関心をもち、制作に主体的に取り組んでいる。 【想】 書体や書風、構成、刻し方、彩色による表現の効果を理解し、感興や意図に応じて構想を練っている。 【技】 刻字制作の手順を理解して、運刀や彩色に関する技能を習得している。 【鑑】 互いに作品を鑑賞し合い、構成や技能のよい点を認め合っている。 |
| | | 【コラム】書に会いに、町へ行こう [教科書 P.92] ◎身近にある書表現に関心をもち、生活の中の書について理解を深めさせる。 | Bア・イ・ウ | ① 町や史跡等で見られる看板や標札の魅力ある書表現を探し、取材して発表する。 | 【関】 生活に溶け込んだ書表現について関心をもっている。 【鑑】 町で見られる看板や表札を中心にした書表現について理解を深めている。 |
| 書道史 | | | | | |
| 適宜 | 適宜 | 書の歴史と文化を知ろう [教科書 P.94-101] ◎鑑賞や臨書に生かすため、書の美と時代、風土、筆者との関わりを理解させる。 ◎日本および中国の書の歴史と文化について理解させる。 | Bイ・ウ | ① 日本および中国の歴史と書作品との相関を理解する。 ② 書を鑑賞する際には、書かれた時代や風土、文化との密接な関わりにも注目すべきことを理解する。 | 【関】 日中の書文化に関心をもっている。 【鑑】 日中の書文化と時代や風土、筆者との関わりについて理解を深め、表現方法・形式の変遷を理解している。 【鑑】 日中の書の歴史と文化について理解を深めている。 |
| | | 中国・日本書道関係地図 [教科書 P.102-表3] ◎書の美と時代や風土との関わりを理解させる。 | Bイ・ウ | ① これまでに学んできた日中の古典・古筆の名跡の收藏先を地図で確かめる。 | 【関】 日中の書文化に関心をもっている。 【鑑】 「書道Ⅱ」で学習した古典・古筆の名跡の收藏先を確認し、鑑賞活動への意欲を高めている。 |